

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	妙高市役所			代表者名	城戸 洋二
担当者部署(属性)	企画担当	担当者部署名	企画政策課	連絡先電話番号	0255-74-0005
担当者役職	課長補佐	担当者氏名	池田 潤	連絡先E-mail	
住所	944-8686 新潟県妙高市栄町5-1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	行政改革推進
概要	実践的なワークショップ形式の研修やデジタル技術（ＡＩ等）を活用した政策の効果予測など、職員の実践的なデータ活用能力を育成するとともに、庁内におけるさらなるデータ利活用推進を図り、データに基づいた政策立案体制を構築する。		
支援を求める分野	人材（ＤＸに関する知識習得・研修・育成）EBPM（エビデンスに基づく政策立案）		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年9月29日	支援・助言&講演(実地)	13時00分	15時30分	15
				活動時間（分）	135
2-2. 派遣場所	会場名	妙高市役所		最寄駅	新井
	所在地	新潟県妙高市栄町5-1		最寄駅からの交通手段	徒歩

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	川島 宏一
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	EBPM（エビデンスに基づく政策立案）の基本概念から実践的な活用方法まで、理論と実務を効果的に織り交ぜながら分かりやすく解説され、受講者の理解促進に結びついた。特に、課長補佐クラスの職員が対象であることを踏まえ、所属課の業務に即した具体的な事例や演習を取り入れたことで、仮説構築力の向上や実効性のある研修内容であった。
アドバイザーへの要望事項	特になし

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	10人
	属性	自治体職員	住民	企業・団体
	人数	10		その他(学生など)

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	人口減少や少子高齢化、地域経済の縮小といった複雑・多様化する行政課題に対応するため、限られた財源・人材の中で、より効果的・効率的な政策立案が求められている。このような状況の中、EBPMの重要性が高まっているが、現状では職員の知識や理解が十分でなく、政策の企画・立案において経験や慣例に頼る場面も多い。加えて、施策の優先順位づけや成果の評価においても、根拠となるデータの収集・活用が十分に行われていないのが実情である。EBPMの実践には、統計データやアンケートなどを通じて現場の「実際のニーズ」を把握する力や、仮説を立てて検証する力が求められるが、そうしたスキルの習得・定着が課題となっている。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	EBPMに関する基礎的な知識を習得するとともに、政策課題の本質を見極めるための分析力や、事業の成果を検証するための仮説構築力の向上を目指した。特に、統計データや住民アンケート、フィールドワークなどを活用し、客観的なニーズを把握した上で施策を立案・評価できるようになること。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	・講義：EBPMの主要な概念・考え方、因果関係を検証する手法 ・演習：個人ワーク、グループワーク	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	これまで課題とされていたEBPMに関する基礎的な理解不足が改善され、エビデンスを活用する意義や必要性について職員の認識が深まった。また、経験や慣例に頼った政策立案から脱却し、客観的なデータや住民の声に基づいた施策の検討が重要であることを、具体的な演習や事例を通じて実感することができた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない まだありません
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	EBPMの基礎的な理解や重要性についての認識は深まったものの、実際の業務にEBPMを継続的に取り入れる仕組みや体制までに至っていないため、継続的な取り組みが必要であると感じた。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 受講者を対象に研修実施前と後で2回アンケート調査を実施する。受講者を2班に分けており9月29日にすべて終了した後、集計して提出することとしたい。	
4－3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある 今回の研修で得られた知識をこれから始まる新年度予算の事業に反映する
4－4. 事業の最終的な目指す姿	職員一人ひとりがEBPMの考え方を理解し、統計データや住民の声を活用して、客観的かつ根拠ある政策立案を実践できるようになることを目指す。これにより、住民の納得感を高め、地域と協働した持続可能なまちづくりを実現する。	

5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可		https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/
掲載許可	☐ 掲載可	

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

